

|                        |                                                                                                                                                                                      |                     |                       |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------|
| 演題名                    | チャーリーを救え！                                                                                                                                                                            |                     |                       |
| 施設名                    | ケアセンターけやき                                                                                                                                                                            | ふりがな<br>発表者(職種)     | さいとう ゆう<br>斎藤 優 (介護士) |
| ふりがな<br>チーム名           | けやきあんぜんたいさくいいんかい<br>けやき安全対策委員会                                                                                                                                                       |                     |                       |
| 分類                     | ②安全の向上をめざすもの                                                                                                                                                                         |                     |                       |
| 取り組み種別                 | 問題解決型                                                                                                                                                                                |                     |                       |
| 改善しようとした<br>問題課題       | 高齢者施設において、誤嚥や窒息による死亡事故のリスクが常に存在している中で、職員の対応力の不足が課題となっていた。特にハイムリック法に関しては、多くの職員がその存在を知っているものの、実際に行ったことがない、研修機会がない、体力的に自信がない、あるいは「怖くてできない」といった心理的・物理的な障壁があり、緊急時の対応に不安を感じていた。            |                     |                       |
| 改善の指標と<br>その目標値        | (指 標) ハイムリック法を「実践できる」と回答した職員の割合<br>(目標値) 50%                                                                                                                                         |                     |                       |
| 実施した対策                 | 誤嚥・窒息対応力向上を目的に「チャーリーを救えプロジェクト」を立ち上げ、6～8月に全職員対象で動画視聴と実技訓練を実施。9月にST作成の研修資料を共有し、10月にはPC配信で勉強会を開催。学習管理システム「メルタス」で進捗管理も行った                                                                |                     |                       |
| 改善指標の<br>対策実施<br>前後の変化 | (実施前) ハイムリック法を「実践できる」と回答した職員の割合は14.1%<br>誤嚥・窒息に対する知識や意識が不十分<br><br>(実施後) ハイムリック法を「実践できる」と回答した職員の割合は46.3%。<br>誤嚥・窒息対応の知識や意識が高まり、他技術の理解も深まった。連携力や異変への気づきも向上し、安全体制の強化に繋がった。             |                     |                       |
| 歯止めと<br>標準化            | ハイムリック法の訓練は各部署において年1回の定期研修として継続することとした。また、新人職員の採用時には、誤嚥・窒息予防に関する動画を必ず視聴し学ぶよう研修項目に組み込んだ。さらに、特定の部署にのみ参加が偏らないよう、研修参加がしやすくなるような仕組みづくりも行った。加えて、事故予防の観点から、食形態やトロミの統一といった実践面の見直しも並行して進めている。 |                     |                       |
| 活動の種類<br>※複数選択可        | ④組織全体で取り組んだ活動                                                                                                                                                                        | チーム<br>メンバー<br>(職種) | 1 五月女 美喜 看護師          |
| 活動の場<br>※複数選択可         | ④その他                                                                                                                                                                                 |                     | 2 白鳥 明日香 理学療法士        |
| 活動期間                   | 2024年4月 ～ 11月                                                                                                                                                                        |                     | 3 松崎 裕統 言語聴覚士         |
| リーダー名<br>(職種)          | 五月女 美喜 (看護師)                                                                                                                                                                         |                     | 4 五十嵐 拓志 介護福祉士        |
| 活動回数                   | 9 回                                                                                                                                                                                  |                     | 5 斎藤 優 介護士            |
|                        |                                                                                                                                                                                      |                     | 6 松井 優果 介護士           |
|                        |                                                                                                                                                                                      |                     | 7 遠藤 真理 介護士           |
|                        |                                                                                                                                                                                      |                     | 8 川中 幸男 調理師           |
|                        |                                                                                                                                                                                      |                     | 9 斎藤 紀子 介護支援専門員       |
|                        |                                                                                                                                                                                      |                     | 10 舟山 靖紀 作業療法士        |

## 【現状把握】

### 現状把握

ハイムリック法を知っていますか？  
知っている73%

窒息サインは知っていますか？  
知っている50.6%

ハイムリック法の講習を受けたことがありますか？  
受けたことがある27.1%

ハイムリック法を実践できますか？  
実践できる14.1%

対象者…職員85名 5月データ

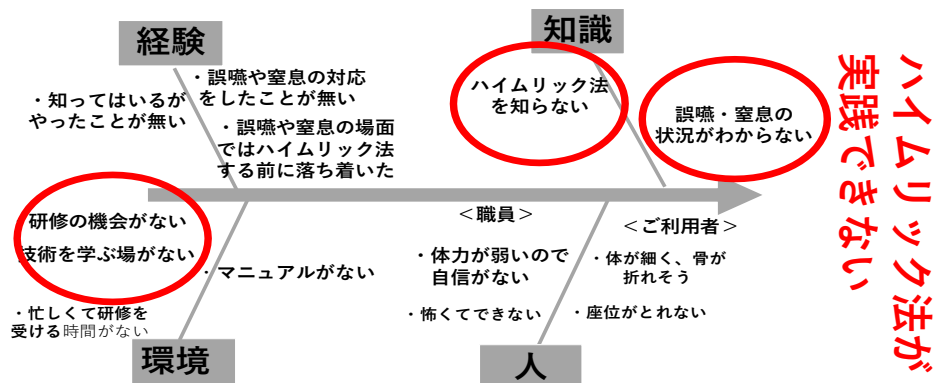
## 【目標設定】

### 目標設定

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| いつまでに | 令和6年10月末までに           |
| 何を    | 職員のハイムリック法の取得率        |
| どうする  | 実践できるを <b>50%</b> にする |

## 【要因解析】

### 要因分析



## 【対策の立案と実施】

### 対策の立案と実施

| ハイムリック法の学習と実践                                                            | 嚔下・窒息勉強会                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>◎チャーリーを救えプロジェクト</p> <p>月に1回（計3回）誤嚔・窒息時の対応動画での学習とハイムリック法の実技訓練を実施する</p> | <p>◎STによる研修動画作成と配信</p> <p>メルタスにて研修動画配信。誤嚔と窒息等の知識を深め早期発見し適切な対応ができ予防的行動がとれるようにする</p> |

### 対策の実施1

#### ハイムリック法の学習と実践

- ・6月～8月:けやきスタッフ全員を対象に、月に1回（計3回）誤嚔・窒息時の対応動画での学習とハイムリック法の実技訓練をチャーリーを救えプロジェクトとして実施

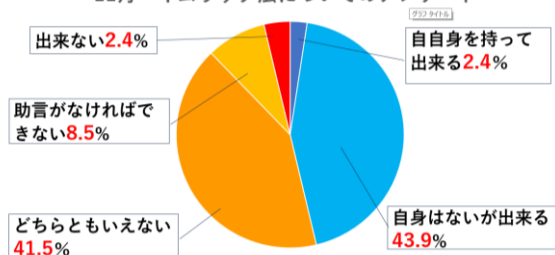
### 対策の実施2

#### 嚔下・窒息勉強会

- ・5月:松崎STに研修依頼
- ・9月:松崎STより研修資料ベースを戴き、内容をメルタスにて委員会で共有し質問等受付ける
- ・10月21日:「嚔下・窒息勉強会」研修（PC配信）開始し視聴促す

## 【効果の確認】

11月ハイムリック法についてのアンケート



## 効果の確認 11月

### ハイムリック法を実践できる

14.1% → 46.3%

**目標未達成**

### 有形効果

- ・誤嚔や窒息を早期に発見し、適切に対応できる力が身についた。
- ・チャーリーを使った訓練で、ハイムリック法を概ね実践できた。
- ・背部叩打法など他の対応法も確認し、知識と予防意識が高まった。

### 無形効果

- ・スタッフ全員が誤嚔・窒息への理解を深め、訓練を通じて状態変化への気づきが高まった。
- ・緊急時に協力できる体制が強化され、対応の速さと救命率の向上が期待される。

### 波及効果

- ・チャーリーさんが出張し健育会グループの他施設でも活躍している



## 【標準化と管理の定着】

### 標準化と管理の定着

- ・ハイムリック法は動画視聴とチャーリを活用し、各部署で年1回定期的に研修を継続する
- ・嚥下・窒息予防動画も含めて採用時には、研修を行う

## 【反省と今後の進め方】

### 今後の課題

- ・特定の部署に参加の偏りがあったので、参加しやすい工夫と管理が必要
- ・予防という観点から、統一した食形態やトロミの潰け方の見直しが必要